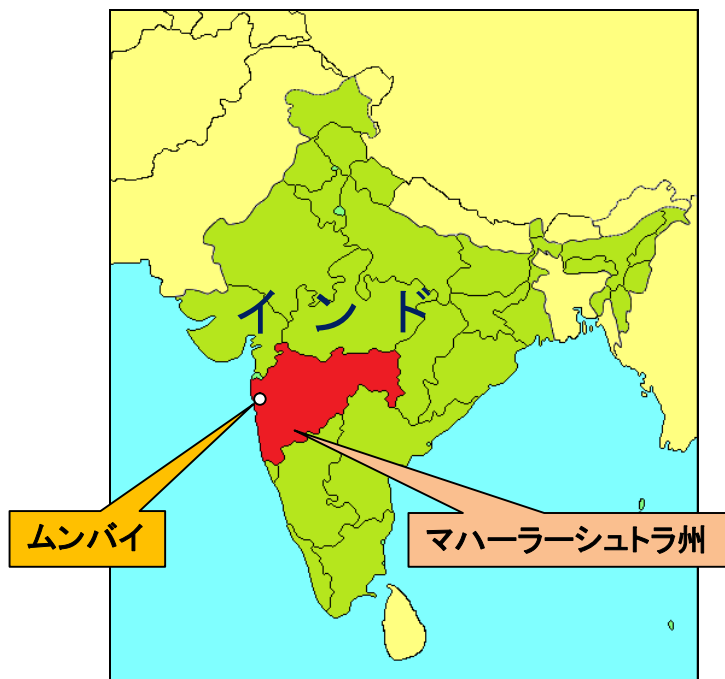


# インド、ムンバイ市でマラリアが流行

2010年5月18日 ProMED 情報(Hindustan Times)



2010年5月、マハーラーシュトラ州ムンバイ Mumbai 市でマラリア患者3名が死亡しました。また、1,250名以上が検査でマラリアと診断されました。例年は、夏になると患者数が減少することから、5月でのマラリア患者数の増加が驚かれています。

4月では、少なくとも3,122名のムンバイ市民が検査でマラリアと診断され2名が死亡しました。これは2009年4月のマラリア患者数1,351名に比べ2倍に相当します。なお、2008年4月は790名でした。

マラリアの媒介動物である蚊は、溜まり水があると繁殖するので、マラリアはモンスーンの季節とその後に流行するのが普通です。気温が40°Cを超えると、蚊の繁殖が遅延しますが、今年のムンバイの気温はそれより低く湿度が高いため蚊の繁殖が続いていると国立ベクター疾病対策プログラム(NVBDCP)の同州責任者は述べています。

また、同市の職員は、建設工事の増加が蚊の繁殖を促進にしていると考えています。工事現場の蚊の駆除はBMC(Brihanmumbai Municipal Corporation)が行ってきましたが、5月1日から建築業者の責任で行うことになりました。

〔ProMED 調整者〕

通常、ムンバイ市はマラリア発生の低い危険地域と見なされています。蚊の駆除対策の変更が原因のひとつかもしれません。